

大阪 コロナ死者4000人超

全国最多 知事 さらに病床削減狙う

全国最多の状態が続いている大阪府の新型コロナウイルスによる累計死者数が3日、4000人を超えた。

▼関連②面

3日時点の累計死者数は4002人。府の1・6倍の人口を持つ東京都の死者数(3740人)を上回ります。とくに第6波(昨年12月17日)の死者数は9338人と東京都(568人の1・65倍に膨れ上がっています。

4月1日から算出)

府の第6波の人口10万人

あたりの新規感染者数は5344人。都の4637人を上回り、全国平均(2713人)のおよそ2倍です。(2月1日の推計人口4002人。府の1・6倍から算出)

3日現在、府の重症病床使用率は42・6%。ここにあります。とくに第6波(昨年12月17日)の死者数は9338人と東京都(568人の1・65倍に膨れ上がり、その他の悪化により重症病床での入院加療が必要な患者数も含まれていますが、府が国に緊急事態にあるのは国の病院・病

吉村洋文府知事は「重症

す。

病床は命を守る最後のところです」といながら、急性期病床を2020年度に229床も削減し、21年度にはさらに多くの病床を削ろうとしています。大本

ではなく医療体制の拡充で

大阪コロナ死者数が突出

東京よりも多く

大阪府の新型コロナウイルスによる累計死者数

が4000人を超えて、500万人以上人口が多い東京都の死者数を上回り続けています。言い訳を続ける吉村洋文知事の責任が問われています。

者数に対し、吉村氏は記者会見で「致死率（陽性者に占める死者数の割合）は全国でも高くなっている」と弁解。しかし問題は、人口あたりの新規感染者が他県と比べて圧倒的に多いことがあり

ます。さらに、致死率でも都の0・09%に対して府は0・2%と倍になっています。

吉村氏は2月19日、読売テレビのバラエティ番組出演中に、府の死者数の多さについて「明らかに高齢の方が重症化してお上りになります」と説明しました。

リスク明らか

そもそも高齢者が多く基礎疾患があり、コロナ感染による持病の悪化、発熱・炎症による重症化や死亡リスクの高さは第5波までの傾向でも

明らかでした。だからこそ施設への重点的検査や、陽性者が出した場合の早期介入が感染拡大予防と本人保護のためにも強く求められてきました。検査、医療、保健所体制の強化を十分に進めてこな

かった府の責任を問われています。

2月18日に開かれた大

阪府新型コロナウイルス対策本部会議の資料によると、陽性者が複数発生している高齢者施設・障害者施設は「日時点での施設数は71日時点です。そのうち往診などの

「医療介入があった施設」は1588施設(37%)にとどまり、「保健所回答なし」が192施設(45%)もありました。

取材に府の担当者は、「医療介入状況はどうだったかについての回答が保健所から得られなかつた。不明ということだ」と回答。複数の陽性者が出した施設の半数近くについて、どういう対応がなされたかすらつかめないのです。

大きな要因は

同会議資料でも専門家が「早期に医療的介入が行われずに重症化する、あるいは亡くなるとといった悪循環が起つて

いる」「十分に治療介入が行われずに重症化する、あるいは亡くなると感染が拡大する」と述べています。重症化が速い高齢者へのブースター接種の加速と、クラスター(感染者集団)の発生が相次ぐ高齢者施設への社会的検査の徹底は義務です。

(鶴田聰)

吉村府知事 言い訳ばかり

ができた結果の死亡率ではない。早期介入、早期治療の徹底が重要などの厳しい指摘が出ていました。保健所機能のひっ迫

が、感染発生時の対応の遅れ、他の高齢者へのさらなる感染と症状の悪化につながり、死者数を押しつける大きな要因となっていました。

全国的な死者数増加の背景にはワクチンの3回目接種(ナースターリング)の遅れもあり、岸田政権の責任も問われています。重症化が速い高齢者へのブースター接種の加速と、クラスター(感染者集団)の発生が相次ぐ高齢者施設への社会的検査の徹底は義務です。